平成 26 年度理事会，学術評議員会ならびに社員総会における報告承認決定事項

第 57 回一般社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は，花房俊昭会長主宰のもとに平成 26 年 5 月 22，23，24 日の 3 日間，大阪国際会議場，リーガロイヤルホテルほかにおいて開催された．これに先立ち 5 月 21 日に理事会および学術評議員会がリーガロイヤルホテルで開催され，また定時社員総会は 5 月 22 日に大阪国際会議場で開催された．

1. 平成 25 年度事業報告および庶務報告

●事業報告

1. 第 56 回年次学術集会

会　長　荒木栄一（熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学分野）

会　期　平成 25 年 5 月 16 日（木）～5 月 18 日（土）

会　場　熊本市民会館，ホテル日航熊本，ほか

参加者　11,257 名

○会長講演

○特別講演　C. Ronald Kahn 教授, Rury Holman 教授

○特別声明

○学会賞受賞講演

ハーゲドーン賞　糖尿病性腎症に関する基礎的・臨床的研究

リリー賞　①臓器間相互作用が司る糖代謝とエネルギー代謝のクロストーク

②糖尿病大血管症の病態解明と早期診断

○特別シンポジウム

糖尿病腎症研究の進化と展望　他 7 題

○シンポジウム

肥満の成因と治療　他 18 題

○教育講演

糖尿病の分類と診断　他 30 題

○ Diabetes Controversy

血糖コントロールの管理目標―HbA1c 6% 未満 or 7%～8%　他 5 題

○糖尿病劇場

～「藪の中」篇～

○若手研究奨励賞　審査口演　15 題

○一般演題　2,688 演題（口演 1,257 題，ポスター 1,431 題）

2. 第 48 回「糖尿病学の進歩」

世話人　吉岡成人（NTT 東日本札幌病院内科診療部長）

会　期　平成 26 年 3 月 7 日（金）・8 日（土）

会　場　札幌コンベンションセンター

参加者　3,763 名

1）第 1 日目

A 会場

○レクチャー：専門医単位更新のための指定講演（専門医，非専門医，上級 CDE）

1. 糖尿病の分類と診断基準　他 10 題

B 会場

○シンポジウム：1 型糖尿病の成因と病態

1. 1 型糖尿病の原因を探る　他 3 題

○シンポジウム：食事療法と運動療法の科学的側面をさぐる

1. 食事療法のサイエンス　他 3 題

C 会場

○レクチャー：糖尿病療養指導に必要な知識（コメディカルスタッフ）

1. 糖尿病療養指導士の現状と課題　他 10 題

D 会場

○レクチャー：臨床医が知っておくべき糖尿病の基礎

1. インスリン分泌のメカニズム　他 4 題

○シンポジウム：糖尿病の合併症 up to date

1. 糖尿病網膜症の病態と治療　他 3 題

E 会場

○レクチャー：糖尿病診療に必要な知識

1. 肥満症の診断と治療 up to date　他 10 題

2）第 2 日目

A 会場

○レクチャー：専門医単位更新のための指定講演（専門医，非専門医，上級 CDE）

1. 糖尿病と生活習慣―食習慣と運動習慣の問題点にどう対処するか―　他 10 題

B 会場

○シンポジウム：2 型糖尿病の新しい治療戦略 New Therapeutic Agents

1. インクレチン関連製剤の有用性と限界　他 3 題

○シンポジウム：インスリン治療のすべて
1. インスリン治療の歴史　　他 4 題
C 会場
○シンポジウム：患者さんのこころと行動
1. 私の心に残った患者さんたち　他 3 題
○シンポジウム：糖尿病の食事療法 up to date
1. 新しい食品交換表の使い方　　他 3 題
D 会場
○シンポジウム：臓器からみた糖尿病の病態と治療
1. 膵臓からみた糖尿病　　他 4 題
○特別企画 1：若手医師のための糖尿病講座
1. 糖尿病研究の奥深さとおもしろさ　他 2 題
○特別企画 2：臨床論文を読み解くための技術
1. 日本における医師主導型臨床試験の問題点　他 2 題
E 会場
○レクチャー：糖尿病診療に必要な知識
1. 日常診療におけるインスリン分泌能・感受性の評価　　他 9 題
F 会場
○シンポジウム：小児・思春期糖尿病のマネージメント
1. 日本における小児・思春期糖尿病の実態　他 3 題
○シンポジウム：糖尿病の基礎・臨床における女性医師のキャリア形成
【日本糖尿病学会，女性糖尿病医を promote する委員会報告・日本医師会共催】
1. 女性医師を取り巻く現状　　他 3 題

3. 地方会活動
1. 第 47 回日本糖尿病学会北海道地方会
会　期　2013 年 11 月 3 日（日）
会　場　北海道大学学術交流会館
会　長　小池隆夫（北海道大学名誉教授）
参加者　775 名
2. 第 51 回日本糖尿病学会東北地方会
会　期　2013 年 11 月 9 日（土）
会　場　仙台国際センター
会　長　佐藤　譲（NTT 東日本東北病院）
参加者　993 名
3. 第 51 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
会　期　2014 年 1 月 18 日（土）
会　場　パシフィコ横浜
会　長　及川眞一（日本医科大学内分泌代謝内科）
参加者　2,640 名（医師 1,436 名，コメディカル 1,063 名，初期研修医 22 名，学生 52 名，招待者他 67 名）
4. 第 87 回日本糖尿病学会中部地方会
会　期　2013 年 10 月 6 日（日）
会　場　ANA クラウンプラザホテル金沢
会　長　古家大祐（金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学）
参加者　793 名
5. 第 50 回日本糖尿病学会近畿地方会
会　期　2013 年 11 月 23 日（土）
会　場　国立京都国際会館
会　長　稲垣暢也（京都大学大学院医学研究科糖尿病・栄養内科学）
参加者　2,819 名
6. 第 51 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
会　期　2013 年 11 月 15・16 日（金・土）
会　場　岡山コンベンションセンター（ママカリフォーラム）
会　長　松木道裕（川崎医療福祉大学臨床栄養学科）
参加者　1,407 名
7. 第 51 回日本糖尿病学会九州地方会
会　期　2013 年 11 月 8・9 日（金・土）
会　場　沖縄コンベンションセンター
会　長　益崎裕章（琉球大学大学院医学研究科内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座（第二内科））
参加者　1,704 名（医師 425 名，コメディカル 811 名，研修医 54 名，学生 14 名，市民公開講座 400 名）

4. 支部長会活動
平成 25 年 4 月 14 日に第 1 回，平成 26 年 3 月 6 日に第 2 回，支部長会が開催された．

5. 分科会活動
1）第 28 回日本糖尿病合併症学会
会　期　平成 25 年 9 月 13・14 日（金・土）
会　場　旭川グランドホテル
会　長　羽田勝計（旭川医科大学）
参加者　約 1,100 名

6. 出版事業
①会誌「糖尿病」第 56 巻 4 号，第 56 回年次学術集会抄録号～第 57 巻 3 号まで，13 回発行
会誌　Diabetology International
②糖尿病患者向け指導書

1）糖尿病食事療法のための食品交換表　第6版
増刷なし
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版
200,000部発行
2）糖尿病治療の手びき　改訂第55版　増刷なし
糖尿病治療の手びき　改訂第55版増補版
25,000部発行
3）糖尿病性腎症の食品交換表　第2版
10,000部発行
4）糖尿病食事療法のための食品交換表CD-ROM版（ver. 4）　増刷なし
5）糖尿病性腎症の食品交換表CD-ROM版（ver. 2）付き　増刷なし
6）Food Exchange List　増刷なし
7）糖尿病食事療法のための食品交換表　活用編
5,000部発行

③医師，コ・メディカル向け指導書
1）こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き　第3版　増刷なし
2）糖尿病食事療法指導のてびき　第2版
増刷なし
3）糖尿病療養指導の手びき　改訂第4版
増刷なし
4）糖尿病治療ガイド2012―2013　増刷なし
糖尿病治療ガイド2012―2013　血糖コントロール目標改訂版　100,000部発行
5）糖尿病学用語集　第3版　増刷なし
6）糖尿病遺伝子診断ガイド　第2版　増刷なし
7）糖尿病専門医研修ガイドブック　改訂第5版
増刷なし
8）小児・思春期糖尿病管理の手びき　改訂第3版
増刷なし
9）科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2010（改訂第3版）　増刷なし
科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013（改訂第4版）　8,000部発行
10）糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル　3,000部発行

7．糖尿病週間

平成25年11月11日～17日，第49回全国糖尿病週間の行事が一斉に行われた．テーマは「糖尿病　正しい知識で　予防と治療を」．

8．国際糖尿病連合会議
1）第1回Japan-Korea Forum（2013.5.11，済州島）への参加
2）IDF-WPR Asia-Pacific Diabetes Epidemiology & Education Training Course（APDEC）（2013.8.26～31，ソウル）への講師の派遣
3）AASD Executive Board Meeting（2013.11.6，ソウル）への出席
4）IDF General Assembly（2013.12.2，メルボルン）への出席
5）IDF-WPR Council Meeting（2013.12.2，メルボルン）への出席
6）IDF Melbourne Associations' village（2013.12.2～6，メルボルン）への出展

9．普及・啓発・後援事業
①第49回全国糖尿病週間の共催
期　間　25年11月11日～17日
②日本糖尿病協会への協力
「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等
③世界糖尿病デーへの参加
第7回「世界糖尿病デー」関連イベントの開催
平成25年11月14日
④糖尿病と癌に関する合同委員会
⑤糖尿病学会と肝臓学会との合同委員会
⑥世界口腔保健学術大会記念「第19回口腔保健シンポジウム」　平成25年7月6日
⑦第19回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術集会　平成25年7月14日
⑧心の絆プロジェクト　シンポジウム
平成25年9月1日～10月31日
⑨日経健康セミナー21「正しく知っていますか？糖尿病のこと」　平成25年9月9日
⑩Take ABI 2013―足の血圧でわかる脳や心筋梗塞の危険度―　平成25年9月15日―16日
⑪平成25年度「糖尿病シンポジウム」
（山口会場）平成25年9月29日
（山梨会場）平成25年11月10日
⑫第28回保団連医療研究集会
平成25年10月12日―13日
⑬平成25年度「食育健康サミット」
平成25年12月5日
⑭第25回分子糖尿病学シンポジウム
平成25年12月7日
⑮第25回日本糖尿病性腎症研究会
平成25年12月7日～8日
⑯糖尿病予防キャンペーン　西日本地区講演会
平成25年12月15日
⑰第48回糖尿病学の進歩　市民公開講座
平成26年3月9日

●庶務報告

1. 総会

平成25年5月16日，熊本市民会館にて第56回定時社員総会を開催した．平成24年度事業報告，庶務報告，収支決算報告が承認され，また平成26年度事業計画および予算が承認された．第59回会長に稲垣暢也学術評議員が選出・承認された．

2. 学術評議員会

平成25年5月15日に開催された．

3. 理事会

定例理事会は平成25年5月15日，11月24日，臨時理事会は平成26年3月6日の合計3回開催された．

●会員状況報告（平成26年3月31日現在）

1. 役員等

1）役員

理　事　18名（24年度末　18名）

監　事　2名（24年度末　2名）

2）学術評議員　672名（24年度末　672名）

2. 会員等

1）名誉会員　30名（24年度末　31名，物故者1名）

2）正会員

25年3月末日会員数　16,932名

25年度新入会　639名

退会　−420名　退会内訳

希望退会　312名

会費未納による資格喪失　72名

物故者　36名

正会員　現在数　17,151名（219名増）

3）賛助会員

25年3月末日会員数　44名

25年度新入会　1名

退会　−3名

賛助会員　現在数　42名

3. 物故会員

名誉会員　平田幸正

功労学術評議員　池田正毅　仁木　厚　細迫有昌　正木清孝　向野　栄

会員　井上謙次郎　岩崎良文　上原一之　江田節子　遠藤満智子　大歳　誠　大山晃弘　河津謙太　木村　茂　楠田洋一郎　黒飛万里子　塩谷淑子　杉　謙一　瀬戸山史郎　田上富美子　中川治一　中澤道夫　永野敏久　野口正治　野澤篤史　秦　和子　林　晴彦　福井　章　松本元作　三杉　進　峯村　直　宮本雅子　山北与士雄　山城主計　吉田　威　渡邊雅樹

（敬称略，連絡のあった方のみ）

2. 委員会報告

I.「糖尿病」編集委員会　委員長　吉岡成人

1）委員会開催　6回（平成25年5月16日，7月14日，9月15日，11月17日，平成26年1月13日，3月23日）

2）出版状況は第56巻4号から第57巻3号までの

	総頁数	原著	症例	報告	地方会抄録	編集者への手紙	委員会報告	特集など	その他
Vol. 56 No. 4	63	2	4		中四国1				
Supplement 1	710	第56回年次学術集会							
No. 5	65	2	4		中四国2				
No. 6	61	3	1		中部		1	1	
No. 7	116	2	1		関甲信1				会報
No. 8	97	3	2		関甲信2		2	2	
No. 9	94	2	2	1	九州1	1		1	
No. 10	112	3	2		九州2	1		1	受賞講演
No. 11	75	2	7	1		1			会長講演
No. 12	67	2	2			1		1	総目次
Vol. 57 No. 1	80	3	4	1	中部				会報
No. 2	84	1	5		東北			1	
No. 3	72	2	5		北海道				
計	1,696	27	39	3	10	4	3	7	5

12 誌と「第 56 回年次学術集会抄録号」を発行した.

3）平成 25 年 4 月 1 日から平成 26 年 3 月 31 日までの新規投稿数は 114 編（内訳：原著 51，症例 53 編，レビュー 1 編，短報 1 編，編集者への手紙 7 編，委員会報告 1 編），この期間に採否決定した論文数は 134 編（採択可 85 編，否 41 編，辞退 7 編，期限切れ 1 編），採択率は 67％であった．採択日から掲載までの期間は約 3～4 ヶ月である.

4）委員改選に伴い委員長選出を行った. 委員長には引き続き吉岡成人委員に, 委員長の指名により副委員長は長嶋一昭委員に決定した.

5）オンライン投稿査読システム「Scholar One Manuscripts」を導入し，7 月 1 日から新規投稿論文受付を開始した. 採用までの期間も大幅に短縮された.

6）第 55 回年次学術集会でのシンポジウム「糖尿病と妊娠」を 9 号に記録として掲載した．今後も同様のシンポジウムを記録として掲載していく予定である.

7）特集を 5 本【Vol. 56-No 7「糖尿病発症における臓器の役割」，Vol. 56-No 8「糖尿病における性差医療」，Vol. 56-No 10「DPP-4 阻害薬―最近の話題」，Vol. 56-No 12「見直される糖尿病の食事療法」，Vol. 57-No 2「糖尿病と遺伝子」】を企画し掲載した.

また，委員会報告「糖尿病と癌に関する委員会報告」を Vol. 56-No 6 に，「急性発症 1 型糖尿病の診断基準（2012）の策定」と「緩徐進行 1 型糖尿病（SPIDDM）の診断基準（2012）」は Vol. 56-No 8 に同時掲載した.

8）出版費用（印刷，発送）の削減を図るための見直しを行い，完全ペーパーレス化から電子化に移行する方針で進めることとした．完全なペーパーレス化にあたっては細則の変更，総会承認など必要な手続きを経た上で, Vol. 59-No 1（平成 28 年）からの電子化に向け会員の意見などを参考に更なる検討が必要である．現時点でのコスト削減策として, 紙質の変更, 色紙廃止し全頁白紙使用するなどの見直しを図り, Vol. 57-No 4 から適用する.

II.「Diabetology International」編集委員会

委員長　春日雅人

1）委員会開催状況　1 回（平成 25 年 5 月 18 日）

2）論文投稿状況及び採択率

2014 年 4 月 3 日現在

	2010	2011	2012	2013	2014
Total Submitted	45	81	72	79	15
Monthly average	5.6	6.8	6	6.6	5
Total Decisioned	35	63	53	63	4
(Accept)	18	43	38	47	2
(Reject)	17	20	15	16	2
Acceptance Rate	51%	68%	72%	75%	50%

3）出版状況

冊子は 2013 年 Vol.4-1～4 までを全て予定通り刊行した.

4）委員会報告掲載状況

Title	Volumes & Issues
Report of the JDS/JCS Joint Committee on Diabetes and Cancer	Vol. 4-2
Diagnostic criteria for acute-onset type 1 diabetes mellitus (2012) Report of the Committee of Japan Diabetes Society on the Research of Fulminant and Acute-onset Type 1 Diabetes Mellitus	Vol. 4-4

5）依頼論文

Award & Name	Title	Volumes & Issues
リリー賞受賞論文（2013） Tetsuya Yamada	Inter-organ communications mediate crosstalk between glucose and energy metabolism	Vol. 4-3
リリー賞受賞論文（2013） Naoto Katakami	Pathophysiology and early diagnosis of diabetic macroangiopathy	Vol. 4-4
Outstanding Foreign Investigator Award (2013) Mark E. Cooper	Identifying and interpreting novel targets that address more than one diabetic complication：a strategy for optimal end organ protection in diabetes.	Vol. 4-4

6）Impact Factor

ISI への申請手続きを 9 月 11 日に行った．申請の際，Diabetologia の Editor-in-Chief Dr. Juleen Zierath に Diabetology International の Recommendation letter を依頼し, DI の journal description text と合わせて提出した.

IF 取得のための審査項目は①定期刊行であること，②論文や著者，Editor の質が高いこと，③引用回数であり，②で委員会報告やガイドラインの英訳版の抜粋などを多く掲載することにより③についても必然的に達成されることが見込まれるため，「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」や「糖尿病治療ガイド」の英訳版の抜粋を掲載することや，Supplement を制作することなども検討しながら，引き続き会員や海外からの投稿を呼びかけることとした．

7）PubMed

当面の課題である，PubMed データベースに収載されるためには，Medline ジャーナルとして PubMed 側で行われる審査に通る必要があるが，その審査が年々厳しくなってきている状態であり，そのための倫理規定の強化を進めた．具体的には平成 26 年 2 月 1 日付で投稿規定を改定し，査読者のチェックリストの策定などを行った．また，定期刊行がなされることは審査において必須条件なので，今後も引き続き定期刊行を目標に投稿数の更なる増多を呼びかけていく予定である．

8）表紙リニューアルの件

平成 26 年度に発刊 5 周年を迎えた．そこで，この節目に表紙を一新し，DI をデザイン化しロゴマークを作成することで，より学会員に親しまれる英文誌を目指すこととした．

III.「食品交換表」編集委員会　委員長　石田　均

1）委員会の開催

「食品交換表」編集委員会を①平成 25 年 5 月 18 日（土），②11 月 10 日（日），「食品交換表」改訂小委員会を①平成 25 年 4 月 7 日（日），②6 月 9 日（日），③8 月 4 日（日），「食品交換表活用編」改訂小委員会を①平成 26 年 2 月 9 日（日），②3 月 16 日（日）に行った．

※5 月 18 日，11 月 10 日は，食品交換表編集委員会・同改訂小委員会・カーボカウント小委員会の合同委員会であった．

2）出版事業

（ i ）「食品交換表」関連書籍の平成 25 年度（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）の売上・発行状況

※（　）内は発行以来の累計を示す．

①糖尿病食事療法のための食品交換表　第 7 版（平成 25 年 11 月刊行）

売上部数：156,893 部（156,893），発行部数：200,000 部（200,000）

②糖尿病性腎症の食品交換表　第 2 版

売上部数：5,162 部（108,254），発行部数：10,000 部（118,000）

③英文版　食品交換表

売上部数：188 部（3,400），発行部数：0 部（3,400）

④糖尿病食事療法指導のてびき　第 2 版

売上部数：643 部（20,525），発行部数：0 部（22,000）

⑤CD-ROM 版（ver. 4）食品交換表　第 6 版

売上部数：76 部（2,559），発行部数：0 部（3,000）

⑥CD-ROM 版（ver. 2）糖尿病性腎症の食品交換表　第 2 版

売上部数：6 部（2,229），発行部数：0 部（2,500）

⑦食品交換表　活用編

売上部数：6,047 部（78,684），発行部数：5000 部（80,000）

（ ii ）「糖尿病食事療法のための食品交換表　第 6 版」について

第 7 版の刊行をもって販売終了となった．発行部数（累計）は 2,950,000 部，売上部数（累計）は平成 26 年 3 月時点で 2,875,223 部である．（全国の書店から在庫の返品がすべて終了した段階で売上部数が確定．）

3）引用許可願いの審査状況（平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月）

「食品交換表」について計 74 件申請があり，審査結果の内訳は無条件許可 3 件，条件付許可 45 件，審査前取り下げ 11 件，審査中取り下げ 1 件，審査中 14 件であった．「腎症の食品交換表」は申請 2 件（条件付き許可 1 件，審査前取り下げ 1 件），「活用編」は申請 1 件（条件付き許可 1 件）であった．

4）食品交換表の改訂について

「食品交換表第 7 版」が刊行され，それに伴い関連書籍（活用編，腎症，カーボカウント）の改訂および刊行準備について，各小委員会にて具体的に進めていくこととなった．

IV.「糖尿病治療の手びき」編集委員会

委員長　石塚達夫

・今年度は，2013 年 5 月 17 日（第 56 回　日本糖尿病学会総会会期中）および 2014 年 3 月 7 日（第 48 回糖尿病学の進歩会期中）の 2 回の委員会を開催した．5 月の委員会において半数の委員（5 名）が任期満了となり新たな委員が選出された．委員長は石塚委員が留任することを確認した．

・本委員会が編集実務を行っている患者用書籍『糖尿病治療の手びき（改訂第 56 版）』については，①『科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン 2013』，②『糖尿病食事療法のための食品交換表（第 7 版）』，および③新薬に関する情報，などを反

映させ，④全体のコンパクト化を図り改訂を行った．進行としては，2013 年 6 月の執筆依頼，2013 年 9 月の原稿締切後に，委員会で全原稿の検討を行い，一部修正を行った上で最終原稿として，2014 年 3 月 7 日の委員会時には初校の確認を行った．現在，2014 年 5 月の第 57 回日本糖尿病学会までの刊行を目指して最終進行中である．

・今後は，『糖尿病治療の手びき』の改訂に伴い，本委員会のもうひとつの担当書籍である指導者（医師・コメディカル）用書籍『糖尿病療養指導の手びき』（現版：改訂第 4 版，2012 年 6 月発行，南江堂）の改訂に着手する予定である．

V．小児糖尿病委員会　　委員長　雨宮　伸

1）『小児・思春期糖尿病コンセンサスガイドライン』の刊行について：「小児・思春期糖尿病の手びき―コンセンサスガイドライン」の第 4 版とはせずに，上記名称で平成 26 年中の刊行予定である．

2）患者・家族，さらに一般小児科医を含めた対象への刊行物（小児科版『糖尿病治療ガイド』）の要望がなされ，日本小児内分泌学会からもこのような出版物の検討が要望された．上記刊行後検討していくこととなった．

3）平成 25 年度からは小児・思春期糖尿病研究会の年次集会として参加はオープンとなった．引き続き，学会化へ努めていく．

4）各地方会での小児科医の糖尿病学会への参加を引き続き促し，拠点となる糖尿病専門医の養成のための教育関連施設（小児科）の拡充を検討する．地域の特性を活かした小児医療から成人医療の移行を検討する．

小児・思春期糖尿病診療・研究の充実のために，小児糖尿病委員会の委員構成の充実のため各地方会からの小児科医委員の推薦枠などを要望していく．また，研究活動も検討をすすめる．

VI．日本糖尿病協会委員会　　委員長　濱口和之

協会委員会は平成 25 年 5 月 17 日の年次学術集会時に開催され，以下の事項が報告・協議された．

1．学会・協会合同協議の開催報告

事務局より，平成 24 年 10 月 8 日（月）に開催された合同協議について，次の件に関して学会と協会が共同歩調をとり，相互に連携を図っていくことの申し合わせがなされたことの報告があった．

1）無自覚性低血糖と自動車運転の問題について（道交法改正に関連した共同要請），

2）療養指導学術集会開催に対する学会協力について，

3）インスリンケアサポート委員会（協会）の活動．

2．HbA1c の表記変更に関する啓発資料作成・配布について

事務局より，学会が平成 25 年 4 月 1 日以降，日常臨床等における NGSP 値の単独表記や HbA1c の持つ糖尿病診療における意味や意義について，患者さんや医療従事者に周知活動を進めていることが報告された．

3．本委員会の役割および今後の活動方針の検討

学会と協会が有機的な連携を行っていく上で，本委員会の果たすべき役割を明確にしながら，今後も活動内容を検討していくとの認識で一致した．

VII．選挙管理委員会　　委員長　渥美義仁

委員　渥美敏也　高橋義彦　粟田卓也　榊原文彦　池上博司　中田憲一　土井康文

（1）例年同様，本委員会は郵便，e-mail 等を利用して委員会活動を進めていくこととし，従来の申し合わせに従い，理事会推薦の羽田勝計委員を委員長とし，以下の事項を確認した．

平成 26 年度「会長選挙」の手順は前年度「会長選挙手順」を踏襲し，

・支部からの推薦締切日は平成 25 年 11 月 15 日（金）とする．

・推薦された方の意思確認は 11 月 20 日（水）までに事務局必着とする．

・理事長への報告は 11 月 22 日（金）までに行う．

・11 月 24 日（日）の定例理事会で，最終候補者 3 名を決定する．

・候補者の所信のフォーマットは前年度と同様とし，平成 26 年 1 月 10 日（金）を締切日とする．

・候補者の所信が提出された後に委員会を開催する．

（2）平成 26 年 1 月 26 日に委員会を開催し，以降の進め方について協議検討した．

1．会長選出手順およびこれまでの手順についてそれぞれ確認した．

2．所信の確認

3 名の候補者から提出された所信について，内容，印刷の字体や文字数，行間隔などを検討し，本人への指摘事項を決定した．

3．今後の手順について

所信の手直し終了後に，規則に則り従来の形で理事長への報告，会員への周知，学術評議員への所信の送付等を行うことが確認された．但し，学術評議員のうち，メールマガジ

ンでの送付が可能な方へは従来の郵送をやめ，メールマガジンにて所信がホームページに掲載されたことを通知し，閲覧を促すこととした．その代りに，学術評議員会で配布する資料に所信を掲載することとした．

4. 学術評議員会での投票手順の確認について

①開票作業には，会長候補者のいない支部の委員と，候補者のいない支部から委員長が指名した者，委員長を含めて合計9名であたる．今回は北海道支部，近畿支部，中国・四国支部，および九州支部所属の出席者から，4名に依頼する．

また，当日委員に欠席者がある場合は，上記4支部所属の出席者の中から追加して依頼する．

②投票用紙配布直前に会場を閉鎖し，回収後開放する．このことは，学術評議員へ候補者の所信を通知する際に記載する．

③今回も候補者名を予め投票用紙に記載し，所定の欄に丸印を付したものを有効とする．

④最多得票者に決定する．同数の場合は学会入会年月の早い者とする．

⑤各候補者の得票数は公表する．

⑥迅速に開票作業を行うため，投票用紙を折り曲げて投票する場合は「横二つ折りまで」とすることを注意事項として通達する．

以上は，議場で予め公表する．

VIII. 年次学術集会運営委員会　委員長　春日雅人

平成25年12月22日（日）に事務局会議室で委員会を開催した．第56回年次学術集会の事務局として業者との交渉などに尽力された本島学術評議員より経験談をふまえての申送り事項を含む貴重な報告がなされた．第57回，第58回の計画への助言，平成28年に開催予定の第59回年次学術集会の会場に対してなど種々の助言を行った．いずれの年次学術集会も予定通り準備が進行しており，大きな問題は生じていなかった．

IX.「糖尿病学の進歩」プログラム委員会

委員長　春日雅人

平成25年7月7日に委員会を開催し，第47回の住田安弘世話人から申送り事項を含む報告がなされた．これまでは特に調べられていなかった参加者における医師とコメディカルの割合は（事前登録者を除く）当日登録者においては，それぞれ927人，1,462人で，おおよそ2：3の割合であったことが報告された．

第48回「糖尿病学の進歩」の吉岡成人世話人から札幌市で平成26年3月7～8日に開催されるプログラム案などが報告された．第47回で開催した臨床統計学の講座については，今後も継続することを委員会から要望した．

また，第49回「糖尿病学の進歩」は平成27年2月20～21日に岡山市で開催される予定であることが槇野博史世話人から報告された．

X. 糖尿病の保険診療報酬に関する検討委員会

委員長　渥美義仁

（旧，内科系学会社会保険連合委員会）

本委員会は，加来浩平委員，宇都宮一典委員，横田邦信委員，菅原正弘委員，渥美義仁委員で構成している．前回，平成24年の診療報酬改定では，日本病態栄養学会との共同提案による，“糖尿病透析予防指導管理料”，CSIIの在宅自己注射指導管理料の新設を実現することができた．本年，平成26年度の改訂に向け，平成24年秋に，評議員対象に診療報酬関連のパブリックコメントを収集した．そのパブリックコメント，CSIIのコスト負担増の訴え，厚生労働省の提案などを参考にし，内保連経由を中心に要望した．要望は，①地域の病院と診療所の糖尿病に関する循環型診療連携の評価，②コントロールの良いCSIIの隔月診療，③パーソナルCGMの適正な算定，④人工膵臓の施設要件の緩和と出来高算定化，⑤DPC病院入院中のCGMの出来高算定化，⑥SMBGの非インスリン使用者への適応，などを要望した．糖尿病分野で改訂されたのは，CSIIの隔月診療，パーソナルCGMの保険適応，人工膵臓の施設要件緩和，インスリン治療の初期負荷の評価などである．インスリンなど注射治療の適正算定と開始時の負荷が評価されたので，指導をより充実し，安全かつ適正なインスリンなど注射治療（CSII含む）を実施する必要がある．

XI. 日本医学会に関する報告　評議員　門脇　孝

2014年2月19日に第81回日本医学会定例評議員会が開催され，日本肺癌学会，日本胃癌学会，日本造血細胞移植学会，および日本ペインクリニック学会の新規加盟が承認された．

XII. 国際交流に関する報告　委員長　稲垣暢也

平成25年度上半期は国際交流委員会（EASD部会）を平成25年5月17日，下半期は平成26年3月7日に開催した．また，以下の活動を行った．

1. 世界糖尿病デー関連

今年度のシンボルは，第57回日本糖尿病学会

学術集会開催地の大阪府とすることを決定した．また，「世界糖尿病デー」を国民に広く周知するため，マスメディアに協力を要請した．

2. Japan-Korea Forum 関連

平成25年5月11日に済州島において第1回Japan-Korea Forumを the 26th Spring Congress of the Korean Diabetes Associationにあわせて開催した．日本からは，清野進理事，加来浩平理事が座長として，近藤龍也評議員，松本道宏会員，原田範雄会員，柴崎忠雄会員がシンポジストとして参加し，また，Plenary Lectureでは谷澤幸生理事が講演した．

第2回Japan-Korea Forumは，第58回日本糖尿病学会年次学術集会（谷澤幸生会長）に合わせ日本で開催する．

3. APDEC 関連

IDF-WPR Asia-Pacific Diabetes Epidemiology & Education Training Course（APDEC）が平成25年8月26日～31日に韓国（ソウル特別市）で開催され，日本からの講師（Speaker and tutor）として田嶋尚子功労評議員，中神朋子評議員，矢部大介委員が参加した．また，受講生（Educator）として，大江真琴会員，水野菜穂子会員が参加した．

4. EASD 関連

第49回EASD会期中（平成25年9月22日～27日；バルセロナ）にEASD前会長Ulf Smithらと協議を行い，第4回East-West Forumは，第50回EASD（平成26年9月15日～19日；ウィーン）で開催することを検討した．また会期中，アジアでは唯一の団体として，JDSがブースを出展し，交流活動を行った．

平成25年度日欧交換留学プログラムでは，日本から3名の応募があり，審査の結果，2名が最終候補者となったが，それぞれ別の理由により辞退となった．そこで，平成26年度の公募では内定枠を増やし，25年度の予算を充てることとした．

また，平成27年度からは，以下の点を変更して本プログラムを継続することを検討した．

・応募者の年齢制限を廃止する
・留学期間を定めないこととする（ただし1年以内）
・助成金受給の方法を見直す

5. IDF 関連

・平成24年11月24～27日に京都で開催された第9回IDF-WPR Congress/第4回AASD Scientific Meetingが，平成25年度日本政府観光局（JNTO）「国際会議誘致・開催貢献賞」国際会議開催の部受賞会議として選出された．
・World Diabetes Congress（平成25年12月2日～6日；メルボルン）ではIDF-WPR Council Meeting，及びIDF General Assemblyが12月2日（月）に開催された．
（出席者：稲垣暢也委員長，堀田饒委員，清野裕委員，谷澤幸生委員，植木浩二郎委員，矢部大介委員）
・IDF Young Leaders Program, Melbourne 2013への派遣者として，斎藤尚子氏（日本糖尿病協会　東京都支部　あけぼの会会員），坂本真梨子氏（日本糖尿病協会　北海道支部　北海道つぼみの会会員）を選出した．
・毎年恒例のGlobal Villageは，本年からの新たな試みとして，団体ごとではなくIDFの地域ごと（計7地域）にブースを出展するスタイルで行われた．JDSは事務局員2名が現地へ赴き，WPR地域のブースにて交流活動を行った．

6. AASD 関連

・平成24年11月27日に開催されたAASD Executive Board Meetingにおいて，東アジア共通のガイドラインを作成することが決議され，作成委員として今川彰久評議員，能登洋委員，原島伸一委員，矢部大介委員，高本偉碩会員が選出された．
・平成25年11月6日～9日に韓国（ソウル市）において第5回AASD Scientific MeetingとInternational Conference on Diabetes and Metabolism（ICDM）2013が合同で開催され，Plenary Lectureとして稲垣暢也委員長が講演した．また，本学会の会期中に開催されたExecutive board meetingにおいては，昨年京都で開催された第9回IDF-WPR Congress/第4回AASD Scientific Meetingの報告も行われた．また，新たに設立されたAASD学会賞については，以下のとおり初代受賞者が決定された．
The Yutaka Seino Distinguished Leadership Award：Graeme I. Bell教授（米国，シカゴ大学）
The Masato Kasuga Award for Outstanding Scientific Achievement：受賞者なし
The Xiaoren Pan Distinguished Research Award for Epidemiology of Diabetes in Asia：Wenying Yang教授（中国，中日友好医院）
・第6回AASD Scientific Meeting（平成26年

11月21日～24日；シンガポール）は第10回IDF-WPR Congressと合同開催される．

7. JDI関連

Journal of Diabetes Investigation（JDI，インパクトファクター：1.77）は平成26年1月付でOpen Accessジャーナルとして発行されることとなった．これにより，PMC（PubMed Central）への掲載が承認され，平成26年1月以降，Volume 1 Issue 1（2010年）からVolume 4 Issue 6（2013年）までがPubMedで検索可能となる．

XIII．学術調査研究・教育に関する報告

○学術調査研究・教育委員会　　委員長　春日雅人

平成25年11月17日に委員会を開催し，以下の点を決定した．

①日本糖尿病学会研究助成費「糖尿病新診断基準の検証に関する研究」について，各研究代表者の第2年度の中間報告および第3年度の申請内容を検討し，第3年度の助成金額をそれぞれ決定した．

②新規の学術調査研究に関して検討し意見を付して再提出を求めることとした．

③学会賞規定に関して，これまでの事例から改善の余地のある条項について検討を行い，理事会に提案することとした．

○糖尿病新診断基準の検証に関する研究（開始：2011年9月1日）：

「Cross sectional studyとLongitudinal studyによる糖尿病新診断基準の検証」（伊藤千賀子会員），「日本人における糖尿病新診断基準の疫学的検証」（中神朋子会員），「日本人糖尿病の特徴からみた新診断基準の評価」（福島光夫会員），「地域住民における糖尿病の診断基準としてのHbA1cの意義：久山町研究」（向井直子会員）

公募により採択された上記4名の会員によって実施されている本研究は，本年8月31日で第3年度を終了する．その半年から1年後にはそれぞれ学会誌に投稿いただく予定である．

(1) 糖尿病関連検査の標準化に関する調査検討委員会

Committee on the standardization of diabetes-related laboratory testing

委員長　難波光義

平成24年4月1日付で，日本糖尿病学会理事会を中心に各関連団体と協調して進めてきたHbA1c測定に関するJDS値からNGSP値への移行が順調に行われた．現在HbA1c測定に関して今後の検討事項は以下の点にまとめた．

1. NGSP値測定システムへの移行調査：国内でHbA1c測定用の日常検査に用いる測定システムの試薬・機器メーカー16社への調査にて，11,088件中9,705件（87.5%）が平成24年8月末までに移行を完了していた．残りは平成25年3月31日までにほぼ完了予定である．
2. 平成25年4月1日をもって，日常臨床・健診等全ての分野で，NGSP値の使用がなされた．今後NGSP値単独表記・使用を推進する．
3. 平成26年4月1日以降，我が国で使用するHbA1c値はNGSP値を意味し，表記法は原則としてHbA1cとするが，既にシステム上HbA1c（NGSP）と印字されている場合には，次回の変更時点まで継続してよい．原則としてJDS値の併記を行わないことも周知徹底する．上記HbA1c値の運用計画に関しては，日本糖尿病学会が中心となって，関連学会・団体と連携して周知徹底をはかる．
4. 一般社団法人　検査医学標準物質機構からの報告で，HbA1cのこれまでの標準物質JCCRM411-2（JDS Lot 4）の重要が増加したため，新しくJCCRM 411-3（JDS Lot 5）が作成され，そのIFCC値はIFCC HbA1cラボラトリーネットワークに登録されている世界の6基準測定施設での測定値を解析した結果，IFCC-NGSP換算式は，これまで用いていたNGSP値=0.0915 x IFCC値+2.15に完全に一致した．
5. HbA1c測定の将来的精度管理とサーベイランスについては，日本糖尿病学会から日本臨床検査学会への要請で，関連学会と合同での「HbA1c適正運用機構」が立ち上がり，当面POCT機器のサーベイランスを今年度末までに行うことが討議されている．
6. 血中インスリン測定の標準化が，残された大きな課題の一つであることが確認された．

平成25年11月の定例理事会において，平成19年8月から委員長を務められた柏木厚典委員長から難波光義委員長に交代することが決定された．

(2) アンケート調査による日本人糖尿病の死因に関する研究委員会　　委員長　中村二郎

委員：羽田勝計，稲垣暢也，谷澤幸生，荒木栄一，植木浩二郎，中山健夫，神谷英紀

2013年4月にアンケート調査への協力依頼状を1,165施設に送付した．6月20日に，入力必須項目の変更（性別，死亡時年齢，病型，死因，治療の5項目）を行った．9月30日時点で，112施設からの回答（Web入力62施設，書面入力50施設）があ

り，12,515 症例（Web 入力 9,128 症例，書面入力 3,387 症例）が登録された．回収率が低いため，登録締め切りが延長された．2014 年 3 月 31 日時点で，241 施設からの回答（Web 入力 136 施設，書面入力 105 施設）（回収率 20.7%）があり，36,243 例（Web 入力 22,181 症例，書面入力 14,062 症例）が登録された（前回調査では，700 施設に依頼，282 施設から 18,639 症例が登録，回収率 40.3%）．

書面での報告データを入力後，前回調査と同じ会社にアンケート結果の解析を依頼し，本年度中に委員会報告として雑誌「糖尿病」に投稿する予定である．

(3) 日本人 1 型糖尿病の成因，診断，病態，治療に関する調査研究委員会

共同委員長：花房俊昭
共同委員長：小林哲郎

・劇症および急性発症 1 型糖尿病分科会（委員長：花房俊昭）

急性発症 1 型糖尿病診断基準を策定し，和文の「委員会報告」に加え，英文でも発表した（Diabetology International 2013；4 (4) 221–225, Journal of Diabetes Investigation 2014；5 (1)：115–118）．現在，劇症 1 型糖尿病の MRI 所見などについての解析が進行中である．劇症 1 型糖尿病の登録は 463 例である（2014 年 4 月 1 日現在）．

・緩徐進行 1 型糖尿病分科会（委員長：小林哲郎）

「長期にわたりインスリン治療が必要とならない GAD 抗体陽性糖尿病」についての調査の解析がほぼ終了し，第 57 回日本糖尿病学会年次学術集会で発表予定である．「2 型糖尿病に合併した緩徐進行 1 型糖尿病」についての調査が現在継続中である．第 4 回緩徐進行 1 型糖尿病分科会を本年 5 月に開催予定である．

・遺伝子解析チーム（チームリーダー：池上博司）

日本人 1 型糖尿病の体質を明らかにして，診断・予防・治療に資する情報を得ることを目的に，3 つのサブタイプ（急性発症，劇症，緩徐進行）の疾患感受性遺伝子解析の網羅的解析を進めてきた．ゲノムワイドのアソシエーションスタディ（GWAS）の一次スキャン（900K），二次パネル解析，imputation，HLA 層別解析，欧米 GWAS で同定された候補遺伝子の解析と有望な SNP に関する三次パネルでの検証を進めるとともに，WTCCC 遺伝子型データベースへのアクセス許可を得て，欧米の GWAS データとのメタ解析を進めている．また，劇症 1 型糖尿病 234 例で Axiom ASI Array を用いた解析を施行し，HLA-DQ, -DR 遺伝子領域（$P=1.25\times10^{-22}$）の他に 351 遺伝子（524SNPs）領域で $P<10^{-4}$ に達する関連を新たに見いだし，確認を進めている．

(4) 東日本大震災からみた災害時の糖尿病医療体制構築のための調査研究委員会

委員長　佐藤　譲

委員：佐藤　譲（岩手医大，現 NTT 東日本東北病院）（委員長），横野浩一（神戸大，現北播磨総合医療センター）（副委員長），片桐秀樹（東北大），渡辺毅（福島医大），八幡和明（長岡中央綜合病院），高橋和眞（岩手医大，現岩手県立大），石垣　泰（東北大，現岩手医大），佐藤博亮（福島医大），土屋陽子（岩手県立大），安藤里恵（岩手県立大）

本委員会は東日本大震災後に設置され，その目的は糖尿病医療について将来の災害に対する備え，および災害後の急性期ならびに中長期的支援対策の構築を検討することである．2011 年 5 月から 2014 年 3 月まで以下の活動を行い，役割を終えた．

① 2011 年 5 月：発足，東日本大震災が糖尿病および糖尿病医療に及ぼした影響についてアンケート調査施行．

② 2012 年 7 月：「東日本大震災から見た災害時の糖尿病医療体制構築のための調査研究班：アンケート調査結果報告書」（日本糖尿病学会）を作成，報告．

③ 2013 年 6 月：「糖尿病治療ガイド 2012–2013」（文光堂，2013）に“災害への備えと災害時の対応”を掲載．

④ 2013 年 12 月：国際糖尿病学会（IDF–2013，メルボルン）の The Open Forum, Living with Diabetes “Diabetes and natural disasters” のセッションにて “Experience from the Great East Japan Earthquake and Tsunami” を発表．

⑤ 2014 年 3 月：「糖尿病医療者のための災害時糖尿病診療マニュアル」（日本糖尿病学会編）（文光堂）を刊行．

(5) 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会

委員長　難波光義

委員：渥美義仁，佐藤　譲，岩倉敏夫，松久宗英，西村理明，赤澤宏平，山内敏正

重症低血糖の実態を把握し，今後の学会としての対応に反映させるための委員会として発足した．

①平成 25 年 4 月 14 日，第 1 回委員会を開催し，今後の活動内容と方針を審議した．

②学会認定施設の責任者に対して，治療に関連して発生した低血糖の頻度・内容・特徴などを主治医と患者さんの両者に対して調査する旨の実施計画を立て，計画書を学会の倫理委員会と学術調査委員会に提出した．

③両委員会から，調査方法やその後の解析方法につき，専門家を加えて再検討するように指示があった．

④新潟大学医歯学総合病院医療情報部の赤澤宏平先生を委員として加え，平成25年10月6日に第2回委員会を開催し，重症低血糖に関する認定施設責任者宛てのパイロットスタディー調査案とその実施方法について審議し，平成26年2月11日に学会の倫理委員会と学術調査委員会に計画書を提出した．

(6) 膵・膵島移植に関する常置委員会

委員長　稲垣暢也

委員：岩本安彦，粟田卓也，脇　嘉代，豊田健太郎，馬場園哲也，今川彰久，島田　朗，鈴木敦詞．以下2名は日本膵・膵島移植研究会より：後藤満一，穴澤貴行

平成25年12月22日に第1回の委員会を開催し，膵臓移植のレシピエント適応基準の2項目，①内因性のインスリン分泌能の枯渇の証明（血清Cペプチド濃度により判定），②血糖の不安定性に関して検討し，①の基準案を策定して膵臓移植中央調整委員会（以下，中央調整委員会）に提出した．

中央調整委員会で管理している臓器移植ネットワーク（以下，NW）登録までの申請のデータベースならびにNWより送られてくるNW登録のデータベースの融合化，さらに，移植後のデータを合わせたデータ解析等に着手すべく，委員の追加を行った．また，膵臓移植申請の電子化について，中央調整委員会と連携を図りながら，システムの導入を検討することとした．

XIV．平成26年度坂口賞および学会賞に関する報告

1）坂口賞は，武田　倬氏に授与する．

2）学会賞審査委員会（小林哲郎委員長）を平成26年1月25日に開催し，各受賞者を選出した．

①平成26年度ハーゲドーン賞

山本　博（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科循環医科学専攻血管分子生物学）

「糖尿病合併症の成因・病態・克服に関する基礎的研究」

②リリー賞

i）井上　啓（金沢大学フロンティアサイエンス機構　金沢大学・医薬保健研究域附属脳・肝インターフェースメディシン研究センター）

「中枢神経による肝糖代謝制御の分子基盤の解明」

XV．学会認定事業に関する報告

1）専門医認定委員会　　委員長　谷澤幸生

委員会は小委員会も含め8回開催された．2013年度専門医試験は295名が受験し252名（受験申請者合格率83%）が合格した．研修指導医は88名（随時申請含む），認定教育施設29施設，教育関連施設13施設，連携教育施設（小児科）11施設が新たに認定された．更新は，専門医673名，研修指導医252名，認定教育施設124施設，教育関連施設1施設が認定された．専門医更新辞退者31名，研修指導医更新辞退者17名であり，平成26年4月現在における専門医数は4,983名，研修指導医数1,651名，認定教育施設623施設（無床8施設含む），教育関連施設50施設，連携教育施設（小児科）18施設である．

規則及び解説の改訂を次の通り行った．小児科の糖尿病専門医認定を適切に行うために，専門医認定委員会と専門医試験委員会に小児糖尿病委員会から推薦された委員をそれぞれの委員会委員に加えることを規則改訂により定めた．今後，専門医認定委員会と専門医試験委員会の合同WGを開催してその在り方を総合的に協議する予定である．また，地方会で設定できる指定講演を4単位から4単位以上とする規則改訂を行った．専門医規則で規定している「常勤者」の定義を，原則として7時間45分/日，週4日以上勤務する者，と定め，糖尿病専門医申請に必要な常勤としての3年間の臨床研修に育児（介護）中の時間短縮勤務（常勤）が含まれる場合，最低1年間は通常勤務の研修とし，時短勤務の部分は実際の勤務時間に応じて比例配分し研修期間に算入することを解説に明文化した．

指定講演のe-learning導入に伴い，単位に関するWGで企業選定が行われ，教育ビジネスサポートに決定し2014年度秋に試験運用し，2015年度夏から本運用となる予定である．

海外の専門医資格取得者に対する日本糖尿病学会糖尿病専門医試験受験の特例について規約を定め2013年度専門医試験に1件予備申請があり事前審査を行い規則に従って審査要件の一部を免除した．また2014年度専門医試験にも1件予備申請があり，事前審査を行い同様に審査要件の一部を免除とする．

糖尿病学会糖尿病専門医の研修のためのカリキュラム作成，カリキュラムチェックリストの改定を進めている．それぞれの案についてパブコメを求め一部修正した．

日本内科学会から「新・内科専門医モデルプログラム（案）」，「研修カリキュラム（案）」，「研修手帳（研修ログ）（案）」が示された．それをモデルとして，新糖尿病専門医研修プログラム作成に関わる

WG で新糖尿病専門医の研修プログラム作成の準備を進めている．今後も機構および内科学会をはじめとする関係学会から引き続き情報収集，連携しつつ準備を進める．

その他，引き続き専門医更新・研修指導医申請に伴う提出資料および単位認定の学術集会に関するガイドラインの要件の改訂，認定教育施設・研修指導医の随時審査の在り方の検討などを進めてゆく．

2）専門医試験委員会　　委員長　宇都宮一典

平成 25 年 5 月 17 日，第 39 回試験委員会を開催し，第 24 回専門医試験の試験方法と出題問題の作成分担，口頭試験担当者，試験監督担当者を決めた．7 月 28 日に委員長，数名の委員により試験問題のチェックを行い，9 月 8 日に委員全員で試験問題の選定を行った．第 24 回専門医試験は，平成 25 年 10 月 27 日，都市センターホテルにおいて実施した．受験者には例年通り，事前に一部出題範囲・面接での評価について公表し，選択問題もマークシート方式で実施した．受験者は 295 名で，11 月 10 日に合否判定案を作成，11 月 17 日に専門医認定委員会に報告，252 名の合格（試験での合格率 85%）が決定された．今年度も希望のあった受験者に対し成績の開示を行なった．

平成 25 年度から面接担当者は研修指導医に依頼することが決まり，専門医制度規則にも明文化された．また，委員には小児糖尿病委員会より推薦された若干名の研修指導医をもって構成されることも規則に追加された．

今後，小児科の申請の増加が見込まれ，認定委員会と合同 WG を立ち上げ試験や面接内容を検討することも決定した．

第 25 回（平成 26 年度）の試験は平成 26 年 10 月 26 日（日）東京国際フォーラムにて，第 26 回（平成 27 年度）の試験も平成 27 年 10 月 25 日（日）東京国際フォーラムにて実施を予定している．

XVI. 分科会に関する報告

日本糖尿病合併症学会　幹事長　羽田勝計

日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は，第 28 回日本糖尿病合併症学会年次学術集会を，平成 25 年 9 月 13，14 日の 2 日間，旭川グランドホテルにて開催した．参加者は，招待者を含め約 1,100 名であった．

本学会が設けた学会賞の受賞者は，

Outstanding Foreign Investigator Award：Mark Emmanuel Cooper 先生（Diabetic Complications Division Baker IDI, Melbourne），Distinguished Investigator Award：岩本安彦先生（東京女子医科大学），Expert Investigator Award：門脇　孝先生（東京大学大学院糖尿病・代謝内科），Young Investigator Award：中司敦子先生（岡山大学大学院糖尿病性腎症治療学講座），北田宗弘先生（金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学），長岡泰司先生（旭川医科大学眼科学講座）に贈呈され，受賞講演が行われた．尚，市民公開講座は 10 月 27 日に開催した．

第 29 回日本糖尿病合併症学会年次学術集会は，門脇孝会長（東京大学）の下，平成 26 年 10 月 3，4 日の 2 日間，都市センターホテルにて開催される予定である．学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号を含め 3 回発行された．

XVII. 糖尿病総合対策への取り組みに関する報告

理事長　門脇　孝

第 4 回日本糖尿病対策推進会議総会が 2013 年 6 月 7 日に日本医師会館大講堂において開催された．

本年度は「糖尿病の受診勧奨と治療中断防止」を促す糖尿病啓発ポスターを作成した．

1.「対糖尿病戦略 5 ヵ年計画」作成委員会

委員長　植木浩二郎

「第三次対糖尿病戦略 5 ヵ年計画」の策定にむけて下記委員を選任し，理事会の承認を得た．

委員：安孫子亜津子（旭川医科大学），石垣　泰（岩手医科大学），綿田裕孝（順天堂大学），曽根博仁（新潟大学），成瀬桂子（愛知学院大学），今川彰久（大阪大学），矢部大介（関西電力病院），藤本新平（高知大学），南　昌江（南昌江クリニック），山内敏正（東京大学）※敬称略

第 1 回委員会を 5 月 18 日に開催し，策定の方針を討議した．

2.「健康日本 21」の糖尿病対策検討委員会

委員長　荒木栄一

I. 委員会開催：委員会開催はなし．

II. 委員会活動

第 56 回日本糖尿病学会年次学術集会の第 3 日目となる，平成 25 年 5 月 18 日に熊本県医師会館講堂において糖尿病対策推進会議地区担当者連絡会議を開催し，日本糖尿病対策推進会議の幹事会活動と今後の方針について報告がなされた．次いで小林正委員と森川秋月委員の司会で，宮城県の赤井裕輝先生，千葉県の橋本尚武先生，佐賀県の安西慶三先生から活動報告がなされ，地域の問題点や今後の方向性が討議された．

また，平成 25 年 6 月 7 日に日本医師会館大講堂において，第 4 回日本糖尿病対策推進会議総会が開催され，本学会，日本医師会，および日本糖尿病協会

の各都道府県の委員が一堂に会し，熊本県および和歌山市の事例報告のほか，本学会の植木理事から熊本宣言を含む「DREAMS プランと HbA1c 国際標準化」についての報告が行われた．

3. 糖尿病データベースの構築委員会

委員長　田嶼尚子

・JDCP study はデータベース構築委員会の中核をなす前向き観察研究であり，平成 19 年から登録患者数 6,439 名（1 型および 2 型糖尿病）の追跡調査を行ってきた．症例報告書の回収率は良好で，追跡 1 年，2 年，3 年および 4 年後の値は，それぞれ，90.2%，79.8%，73.1%及び 63.3%である．全国の研究参加医療施設のご協力により順調に追跡しえていること，わが国の最近の糖尿病管理状況に関するデータが得られていること，糖尿病合併症の発症と進展の危険因子の解析にはイベント数の増加が望ましいこと，等から，研究期間の延長（平成 29 年度まで）を申請し，日本糖尿病学会学術調査研究等倫理委員会の承認を得た．

・進捗状況の確認のため，研究委託業者との定例会議を毎月 2 回，データのクリーニングやイベント発生の評価のために，分野別作業部会を計 14 回（大血管 WG 3 回，疫学 WG 3 回，腎症 WG 3 回，歯周病 WG 1 回，神経障害 WG 1 回，運動療法 WG 1 回，食事療法 WG 1 回，歯周病・疫学合同委員会 1 回）開催した．

・JDCP Study News Letter 11 号，12 号を発行し，参加施設に送付した．

・研究統括委員会からの通達により，外部組織による JDCP study データセンター監査を受ける予定である．

XVIII. 各種委員会

1）糖尿病治療ガイド編集委員会

委員長　荒木栄一

委員：荒木栄一，稲垣暢也，今村　聡，谷澤幸生，中村二郎，野田光彦，綿田裕孝
（新委員）井口登與志，宇都宮一典
（旧委員）渥美義仁，貴田岡正史

委員会開催 3 回：平成 25 年 5 月 18 日，10 月 26 日，平成 26 年 3 月 6 日

1. 委員の交代について
渥美義仁委員，貴田岡正史委員の任期が終了し，新委員として井口登與志委員，宇都宮一典委員が就任した．

2. 売上，発行状況について
①「糖尿病治療ガイド 2012–2013」（平成 24 年 4 月下旬発行）の売上部数は 136,115 部（発行 140,000 部）
②「糖尿病治療ガイド 2012–2013＜血糖コントロール目標改訂版＞」（平成 25 年 6 月 1 日発行）の売上部数は 95,753 部（発行部数 10 万部）

3.「糖尿病治療ガイド 2012–2013＜血糖コントロール目標改訂版＞」
旧委員体制で，平成 25 年 5 月の「熊本宣言」での新血糖コントロール目標の発表に伴い，新血糖コントロール目標の図の掲載，本文中関連箇所の修正，さらに新しい薬剤の情報等も加筆した＜血糖コントロール目標改訂版＞を平成 25 年 6 月 1 日に発行した．

4. 学会ホームページ掲載用「糖尿病治療ガイド　英語版」の制作について
旧委員が章の分担にもとづき「糖尿病治療ガイド 2012–2013＜血糖コントロール目標改訂版＞」を抜粋し，英訳を校正して，平成 25 年 9 月より日本糖尿病学会ホームページで公開した．

5.「糖尿病治療ガイド 2014–2015」の改訂について
新委員が平成 26 年 5 月発行に向け，各分担にもとづいて前版の見直しを行った．糖尿病性腎症病期分類の改訂に伴い糖尿病腎症生活指導基準の変更，発売予定の新しい薬剤（SGLT2 阻害薬など）については平成 26 年 4 月 1 日時点で製造承認が済んでいるものまでを掲載した．

2）インターネット委員会　　委員長　谷澤幸生

・平成 25 年度インターネット委員会については，特に新規の議題がないため，HP 内容のアップデートなどについてメールで随時審議または承認を行った．

・「オンライン投稿・査読」について，平成 25 年 7 月 1 日に学会ホームページおよび MyPage 内にて供用を開始した（システムについては杏林舎「ScholarOne」を使用）．

・MyPage「学会役員ページ」について，メニュー項目に「理事会決議案同意・決議事項閲覧」「議事録閲覧」を設置し，平成 25 年 8 月 28 日に供用を開始した．

・「e–ラーニング」について，別途「単位に関する WG（e-learning）」を設置し，委託先業者を選考，決定した（教育ビジネスサポート株式会社）．前述 WG にて，運用開始に向けて仕様確定，その他準備を行っている．

・糖尿病治療ガイド（英語版）が改訂され，HP に掲載された（平成 25 年 9 月 30 日）．

・2013 年 7 月 10 日に学会員限定で MyPage より閲覧可能としていた「科学的根拠に基づく

供用開始	メニュー項目
H24.11.1	オンライン名簿の検索・閲覧/公開項目の設定
	会員登録内容の確認/変更手続き
	メールアドレス変更/パスワード変更
	医師賠償責任保険団体割引加入
	会員へのお知らせメールの配信管理（一括/階層別）
	会員向けメールマガジン配信設定
	年会費入金状況照会
	専門医単位取得状況照会
H24.11.13	学会イベント登録状況照会
H24.12.11	パブリックコメント投稿
H25.3.29	総会・学術評議員会・出欠委任状
H25.3.18	年会費クレジット決済
H25.7.1	オンライン投稿・査読
H25.8.28	学会役員ページ
H26.5（予定）	役職就任状況照会（供用準備中）
H26（試験運用開始）	e-ラーニング（仕様確定，その他運用開始準備中）
未定	専門医更新申請

□：今後検討，供用開始予定メニュー

糖尿病診療ガイドライン 2013」が，学会ホームページに一般公開された（平成 25 年 12 月 2 日）.

・平成 26 年 3 月現在，MyPage 内各種メニューの供用状態は上記表の通りとなる.

3）糖尿病性腎症合同委員会　　世話人　羽田勝計

糖尿病性腎症合同委員会は，2 回（第 37 回：5 月 19 日東京国際フォーラム，第 38 回：12 月 8 日ホテル東京ガーデンパレス）開催し，下記議論を行った.

1. 糖尿病性腎症病期分類の改訂について
第 38 回に改訂案が了承され，2014 年 1 月 10 日付で，構成学会ホームページに掲載した．尚，委員会報告は，構成学会会誌の同月号に掲載する予定で準備を進めている.
2. 糖尿病症例における eGFR の見かけ上の高値について
HbA1c 値の上昇に従い，eGFR がイヌリン・クリアランスより高値となることが稲葉委員から報告され，補正式が提唱された．日本腎臓学会・日本透析医学会で補正式の検証を行うこととなった.

その他，厚労科研，DNETT-Japan などの経過が報告された.

4）膵臓移植中央調整委員会・臓器移植関連学会協議会報告

■膵臓移植中央調整委員会　　委員長　岩本安彦

平成 25 年度の膵臓移植中央調整委員会が平成 25 年 8 月 4 日，9 月 5 日，平成 26 年 3 月 7 日に開催された．平成 25 年度の主な活動は以下の通りである.

①平成 26 年 2 月 14 日現在の膵臓移植希望者申請書類受付は 595 件（うち膵腎同時移植 480 件，膵単独移植 115 件），ネットワーク登録済みは 464 件（うち死体膵移植済み 185 件，生体膵移植 5 件，待機中死亡 42 件，取り消し 48 件），登録中は 184 件（うち膵腎同時移植 147 件，膵単独移植 37 件）であることが報告された．②レシピエントの移植適応基準に関し，内因性のインスリン分泌の枯渇を裏付けるデータとなる血清 C ペプチド濃度の基準について，「膵・膵島移植に関する常置委員会」からの提案を受け，本委員会で検討し，腎不全患者の基準を含め，新しい基準を採用することとした．今後は，膵臓移植地域適応検討委員会に新基準の徹底を諮る予定である．③移植実施認定施設の施設認定更新の審査が行われ，現在認定されている 17 施設はすべて更新を認め，各施設へ認定書を送付した．④移植関係学会合同委員会が持ち回りで開催され，膵臓移植中央調整委員会より審議を依頼していた奈良県立医科大学病院の膵臓移植実施施設の取り下げが承認された．⑤申請書のデータベース化，申請書類のデジタル化を整備，検討することとした.

■臓器移植関連学会協議会

日本糖尿病学会　世話人　岩本安彦

今期開催無し.

5）糖尿病学用語集編集委員会　委員長　石塚達夫

2011年4月に第3版の発行に至った. 2007年5月から引き継ぎ, 用語集改訂に9名の委員とともに, 3年11ヶ月を経て発行することができた. 英和編7,019語, 和英編6,929語, 略語編975語, 解説を付した用語809語と第2版に比べて, 充実する事が出来た.

3月6日の臨時理事会で次期委員長として順天堂大学の綿田裕孝学術評議員が選任され, 第4版の作成に向けての準備が開始され, 今後, 各位からのご意見を伺い改訂作業に着手される.

6）専門医取得のための研修ガイドブック作成委員会

委員長　中村二郎

「改訂第6版」(全面改訂) の平成26年5月出版に向けて, 作成委員会委員全員による分担査読, 4名の委員による全体査読が終了し, 執筆者に加筆・修正等を依頼した. 年次学術集会前に出版できる見通しである.

7）学術調査研究等倫理審査委員会

委員長　谷澤幸生

糖尿病データベース構築委員会(田嶋委員長) より提出された「糖尿病における失明, 歯周病, 腎症, 大血管合併症などの実態把握とその治療に関するデータベース構築による大規模前向き研究 (JDCP Study)」の観察期間延長に関わる倫理審査申請について持ち回り審議を行ない, 一部修正の後, 承認した.

糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会 (難波委員長) から「糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査研究」に関して審査申請があったが, 審査の過程で研究計画等に関する助言があり, 研究計画を再検討いただく契機となった.

日本人1型糖尿病の成因, 診断, 病態, 治療に関する調査研究委員会 (花房委員長) から「劇症1型糖尿病発症時における死亡例・心停止例の疫学調査」および「劇症1型糖尿病における膵外分泌組織に対する自己免疫機序の検討」の2件に関する審査申請があり, いずれも条件付きでの承認として対応を求めた.

また, この他に学術調査研究の新規申請と同時に申請された件があり, 研究の申請が再提出とされたため, 本委員会の審査は保留とした.

なお, 本委員会はこれまでその役割や委員構成などを明文化した規定を作成していなかったが, 現在検討中の本学会の研究倫理規定との整合性を持った委員会規定を制定するべく準備を行っている.

8）科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン策定委員会　委員長　羽田勝計

「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン2013」は, 2013年5月の第56回年次学術集会で刊行し, 12月1日にはホームページ上で一般公開した. 尚, 刊行後, 2016策定に向けて, 2013版の問題点の抽出作業を行っている. 英語版の編集は, 田嶋尚子委員長の下順調に進んでいる.

9）英語版「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」編集委員会　委員長　田嶋尚子

・日本糖尿病学会は,「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」が国内のみならず海外でも広く活用されることを期待して, 英語版 (電子版) を上梓することを決定, 平成24年5月に本委員会を設置した.

・平成25年度は8月16日 (学会事務局と委員長との打ち合わせ会議), 第1回 (同年10月6日), 第2回 (平成26年3月21日), 第3回 (同年3月31日) 編集会議を開催し, 以下の作業を行った.

・掲載する具体的事項に関して　①ステートメントはそのまま全訳し, 必要に応じて図表も含めて解説の部分から追加引用する, ②文献はステートメントで引用されたもののみを掲載する, ③アブストラクトテーブルは掲載しない, と定めた.

・委員会構成員が以上の基準に則って日本語で簡易版を作成し, それを翻訳業者が英訳した.

・英文の初稿の内容について, 編集委員会で専門用語などを中心にレビューした後, 再度, 翻訳業者による英文チェックを依頼した. 特に,「Report of the Committee of the Classification and Diagnostic Criteria of Diabetes Mellitus. Diabetol Int 2010；1：2–10.」,「糖尿病治療ガイド2012–2013 (英語版：“Treatment Guide for Diabetes 2012–2013”)」,「糖尿病用語集第3版」で用いられている英語の表現と照らしあわせ, 全章のステートメント, 抄出した解説や用語などの統一を図るなど, 編集委員会において確認した.

・以上の手続きを経て完成した初版は, 平成26年4月16日から日本糖尿病学会 home page に掲載し, パブリックコメント投稿を要請中である. 同年5月上旬までに編集委員会にて

全章を通読し，パブリックコメントを反映させた最終版を完成させる予定である．

・電子版のみでなく，ハードコピーの作成についても考慮中である．

10）将来計画委員会（第2次）　委員長　荒木栄一

平成26年3月7日に札幌グランドホテルにおいて第2回委員会が開催された．日本糖尿病学会アクションプラン2010（DREAMS）について，第1次の委員会において提言された内容と現在の進捗状況について確認がなされ，いくつかの提案があった．

平成26年4月12日に第3回委員会を開催し，具体的な議論を進める予定である．

11）パブリックリレーションズ委員会

委員長　加来浩平

委員：渥美義仁，植木浩二郎，小田原雅人，春日雅人，寺内康夫，戸辺一之，濱野久美子，松田昌文，吉岡成人（50音順）

パブリックリレーションズ委員会は，今年度の委員会開催はありません．

12）利益相反委員会　委員長　加来浩平

委員：井口登與志，岩崎直子，植木浩二郎，古家大祐，寺内康夫，前川　聡，山根公則，山田雅康（顧問弁護士）

平成25年7月31日に委員会を開催した．本年度から年次学術集会・地方会・糖尿病学の進歩などの集会でのCOI申告書提出が義務付けられたことに伴い，全申告書は各集会の運営事務局で取りまとめ，電子データもしくは紙媒体で糖尿病学会事務局（東京）へ集約する形での運用が開始されたこと，学会内役員，委員会委員のCOI申告書について学会HP My pageからの登録及び集約が可能となるシステムを構築中であることが確認された．

先行して学会内役員のCOI申告書の集約を行った．

出版物のCOI開示について議論され，「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」と「糖尿病治療ガイド」については，個人のCOI情報は開示せず，全体として該当する企業名だけを掲載する現在の方式を継続することを決定した．また，今後はすべての出版物について順次COI開示を行うことを開始することが確認された．

製薬企業主催・共催の招聘講演に関わるCOI開示と本件に関する日本医学会からの通達について継続討議を行うこととした．

13）定款・細則検討委員会　委員長　加来浩平

委員：河盛隆造，羽田勝計，富永真琴，岩本安彦，寺内康夫，中村二郎，井口登與志，植木浩二郎（事務局：山田雅康弁護士，久保まゆみ会計士）

定款細則検討委員会は，今年度の委員会開催はありません．

14）糖尿病医療の情報化に関する合同委員会

委員長　田嶋尚子

・平成25年8月7日に合同委員会を開催し，糖尿病ミニマム項目セットならびに他3疾病（高血圧，CKD，脂質異常症）に共通する項目等の整備，第33回医療情報学連合大会（神戸，平成25年11月21～23日）での合同企画について検討した．

・第56回日本糖尿病学会年次学術集会（熊本，平成25年5月16～18日）で合同シンポジウム（「ITを駆使した患者中心の糖尿病医療連携の実現と課題」）を開催した．

・策定，改訂作業を行っていた4疾病（糖尿病，高血圧，CKD，脂質異常症）の「糖尿病ミニマム項目セット」，「どこでもMY病院糖尿病記録項目」の最終版が確定され，平成26年2月13日付で理事会承認を得た（MyPage内オンライン決議：JDS2013-No.004）．

・「どこでもMY病院疾病記録」の継続的管理のため，「5学会拡大協議会（仮称，日本糖尿病学会/日本高血圧学会/日本動脈硬化学会/日本腎臓学会＋日本医療情報学会）」の開催に向けて準備している．

・厚生労働省「良質な医療の提供に資する情報基盤の整備事業」の公募について，日本医療情報学会より申請を行った．受理された場合には，日本糖尿病学会も積極的に協力する．

・第57回日本糖尿病学会年次学術集会での合同シンポジウム（「糖尿病診療の情報化―適正な定着と普及へむけて」），第34回医療情報学連合大会（平成26年11月，於：千葉）での共同企画について準備している．

15）女性糖尿病医をpromoteする委員会

委員長　田嶋尚子

・平成25年8月17日に委員会を開催した．女性糖尿病医の活動の現状，パブリックオピニオンに寄せられた意見，世界各国の男女参画に関する資料，国連ウィメンの活動，等を参考に，ブレインストーミングを行い，本委員会の中間報告をまとめた．

・素案は，その後委員間で電子メールにて推敲し，平成25年10月に「女性糖尿病医を

promoteする委員会　中間報告―女性糖尿病医を支援するための提言―」を理事会に提出し，また，12月には将来計画委員会へ提出した．

・日本医師会「医学生，研修医等をサポートするための会」との共催企画で，シンポジウム「糖尿病の基礎・臨床における女性医師のキャリア形成」を平成26年3月8日に開催した（第48回糖尿病学の進歩内）．シンポジウム内で得られた意見ならびにアンケートの回答も参考に，本委員会の最終報告をまとめる予定である．

16）WHO ICD-11内科分野内分泌作業部会

委員長　田嶋尚子

（WHO　ICD-11内　科TAG内　分　泌Working Group）

・内分泌WG作業部会を11回（平成25年4月18日，6月13日，7月18日，8月8日，9月19日，10月17日，11月14日，12月17日，平成26年1月14日，2月13日，3月27日），内科TAG会議を1回（平成25年2月18日）開催した．内科TAG会議には，内科TAG MEのJulie Rust, Megan Cumerlato両氏ならびに厚労省大臣官房統計情報部企画課国際分類情報管理室から谷伸悦室長，及川恵美子国際分類分析官，中山佳保里国際統計係長の3氏が参加し，WHOICD-11改訂作業の現状について説明をうけた．また，本年からは作業部会にも厚労省から出席があり，意見交換をしながら作業を進めている．

・平成24年度末に，WHOとして公開するβ版の内分泌・糖尿病領域の疾患分類階層がほぼ完成した．修正後の疾患分類階層は2,059疾患から構成されており，このうち定義の記入が求められている第3階層から第5階層までの472疾患のうち，本WGの活動により333疾患について，定義記入を終了した．アミロイドーシス関連の50疾患（全階層を含めると54疾患）は定義未入力であるが，小児科TAGの担当領域となる可能性がある．

・平成25年9月26日，厚労省国際分類情報管理室においてWHO本部との電話会議が持たれ，脇嘉代MEが参加した．WHOからmortality/morbidity linearizationにおけるpre/post-coordinationやextension codeの取り扱いについての説明があった．しかし，第5回内科TAG face to face会議（平成25年2月6～7日，東京で開催）で議論された，具体的な取り扱いに関する明確な返答はなかった．

・平成25年3月31日付で田嶋が内分泌WG議長を退任し，内科TAG議長候補に選出された．内分泌WGの次議長候補としてはEdward Gregg（米国CDC）が推薦されている．

17）食事療法に関する委員会

委員長　宇都宮一典

新たな糖尿病腎症病期分類に基づく生活指導基準の策定，糖尿病治療ガイド改訂に際して助言を行った．他学会との連携も見据え，今後の活動方針について検討していきたい．

18）糖尿病と癌に関する合同委員会

委員長　春日雅人

委員：植木浩二郎，田嶋尚子，野田光彦，大橋健，執筆協力：後藤　温，能登　洋，小川　渉

平成25年3月の委員会にて最終の委員会報告案を作成し，本学会の学会誌（「糖尿病56-6」「Diabetology International 4-2」）ならびに日本癌学会学会誌（「Cancer Science 104-7」）に掲載し，両学会のホームページへも掲載した．また，5月14日には記者発表を行い，委員会報告の内容を公表した．さらに，両学会の学術集会にてシンポジウムを開催した（本学会5月熊本，日本癌学会10月横浜）．

また，今後の合同委員会の活動について，両学会で継続することを確認した．

19）日本肝臓学会・日本糖尿病学会合同委員会

代表　春日雅人

委員：荒木栄一，島野　仁，井上　啓，綿田裕孝，窪田直人

平成26年1月19日合同委員会を開催し，以下の点を確認した．1）『肝臓と糖尿病・代謝研究会』の基本方針，2）第1回研究会を日本肝臓学会担当で平成26年7月4日に開催する，3）第2回研究会（本学会担当）は，第58回年次学術集会（下関，谷澤幸生会長）会期中に開催する．

また，第1回研究会のプログラム内容を検討し，演題登録を開始した．

さらに，共同研究について検討し，テーマを「糖尿病外来における肝細胞癌発生の実態把握」とすることとした．今後は，ワーキンググループを立ち上げ，共同研究の詳細を検討することとした．

3.「糖尿病学の進歩」開催について

第 50 回「糖尿病学の進歩」

会　期　平成 28 年 2 月 19 日（金）・20 日（土）（予定）

会　場　東京国際フォーラム（予定）

世話人　内潟安子（東京女子医科大学糖尿病・代謝内科）

※第 51 回「糖尿病学の進歩」の開催支部が近畿支部に決定した.

4. 平成 25 年度収支決算に関する件

定時社員総会で審議の上，平成 25 年度収支決算書が承認可決された .（本号 p557～p582）.

5. 平成 27 年度事業計画に関する件

定時社員総会で審議の上，平成 27 年度事業計画が承認可決された .（本号 p583～p584）.

6. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した田嶋尚子会員が定時社員総会において承認された.

7. 次々会長（第 60 回学術集会）の選任に関する件

学術評議員会にて投票により第 60 回会長に中村二郎会員が選出され，定時社員総会において承認された.

8. 第 58 回年次学術集会に関する件

平成 27 年 5 月 21・22・23・24 日の 4 日間，海峡メッセ下関，下関市民会館ほか（下関市）において開催の予定である .（※5 月 24 日は専門医の指定講演を予定）

9. 理事および監事の承認に関する件

各支部から推薦された 17 名の理事候補者と学術評議員会から推薦された 2 名の監事候補者の就任が承認された.

1. 理　事

北海道支部	羽田　勝計	旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野
東北	片桐　秀樹	東北大学大学院医学系研究科糖尿病代謝内科学分野
関東甲信越	渥美　義仁	公益財団法人ライフ・エクステンション研究所付属永寿総合病院　糖尿病臨床研究センター
	植木浩二郎	東京大学大学院医学系研究科分子糖尿病科学講座
	宇都宮一典	東京慈恵会医科大学糖尿病・代謝・内分泌内科
	門脇　　孝	東京大学大学院医学系研究科代謝・栄養病態学（糖尿病・代謝内科）
	綿田　裕孝	順天堂大学大学院代謝内分泌内科学
中部	古家　大祐	金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学
	中村　二郎	愛知医科大学医学部内科学講座糖尿病内科
近畿	池上　博司	近畿大学医学部内分泌代謝糖尿病内科
	稲垣　暢也	京都大学大学院医学研究科糖尿病・内分泌・栄養内科学
	清野　　進	神戸大学大学院医学研究科生理学・細胞生物学講座　細胞生理学分野　分子代謝医学部門
	難波　光義	兵庫医科大学内科学糖尿病・内分泌・代謝科
中国・四国	大澤　春彦	愛媛大学大学院医学系研究科糖尿病内科学
	谷澤　幸生	山口大学大学院医学系研究科病態制御内科学分野
九州	荒木　栄一	熊本大学大学院生命科学研究部代謝内科学
	井口登與志	九州大学先端融合医療レドックスナビ研究拠点

以上 17 名

2. 監　事

山田祐一郎	秋田大学大学院医学系研究科内分泌・代謝・老年内科学
田中　　逸	聖マリアンナ医科大学代謝・内分泌内科

以上 2 名

10. 各種委員会委員の交代に関する件

任期満了に伴い下記委員会の委員が交代することとなった.

1.「Diabetology International」編集委員会（2014 年度～2017 年度）

北海道支部	渥美　敏也	北海道大学大学院医学研究科

東北	塚本　和久	福島県立医科大学会津医療センター
関東甲信越	石原　寿光 佐倉　　宏 弘世　貴久	日本大学医学部内科学系糖尿病・代謝内科学分野 東京女子医科大学　東医療センター 東邦大学医学部
中部	篁　　俊成	金沢大学大学院医学系研究科
近畿	原田　範雄 木戸　良明	京都大学大学院医学系研究科 神戸大学大学院保健学研究科
中国・四国	和田　　淳	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科
九州	田尻　祐司 山縣　和也	久留米大学医学部内科学講座 熊本大学大学院生命科学研究部

※今回改選の委員のみ掲載

2. 小児糖尿病委員会（2014 年度～2017 年度）

北海道支部	母坪　智行	NTT 東日本札幌病院小児科
東北	高橋　和眞	岩手医科大学糖尿病代謝内科
関東甲信越	浦上　達彦 杉原　茂孝 菊池　信行	駿河台日本大学病院小児科 東京女子医科大学東医療センター小児科 横浜市立みなと赤十字病院小児科
中部	臼田　里香	富山県立中央病院内科（内分泌・代謝）
近畿	川村　智行 高橋　利和	大阪市立大学大学院発達小児医学教室 たかはしクリニック小児科
中国・四国	平井　洋生	愛媛大学医学部小児科
九州	岡田　　朗	（医）岡田内科クリニック

また，下記委員会の委員が交代することとなった．

3. 糖尿病学用語集編集委員会

綿田　裕孝	順天堂大学大学院代謝内分泌内科（委員長）
石垣　　泰	岩手医科大学糖尿病・代謝内科
佐倉　　宏	東京女子医科大学東医療センター内科
島田　　朗	東京都済生会中央病院内科
荻原　　健	順天堂大学附属順天堂医院糖尿病・内分泌内科
浜田　洋司	名古屋大学医学部代謝病態学講座
安田　哲行	大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科
藤本　新平	高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科
西川　武志	熊本大学大学院生命科学研究部糖尿病分子病態解析学

4. 第 3 次対糖尿病対策 5 ヵ年計画策定委員会

植木浩二郎	東京大学大学院医学系研究科分子糖尿病科学講座（委員長）
安孫子亜津子	旭川医科大学内科学講座病態代謝内科学分野
石垣　　泰	岩手医科大学糖尿病・代謝内科
綿田　裕孝	順天堂大学大学院代謝内分泌内科
山内　敏正	東京大学医学部糖尿病・代謝内科
曽根　博仁	新潟大学大学院医歯学総合研究科血液・内分泌・代謝内科
成瀬　桂子	愛知学院大学歯学部内科学講座
今川　彰久	大阪大学大学院医学系研究科内分泌・代謝内科学
矢部　大介	関西電力病院糖尿病・代謝・内分泌センター
藤本　新平	高知大学医学部内分泌代謝・腎臓内科
南　　昌江	（医）南昌江クリニック

5. 委員の交代

	新任	退任
専門医認定委員会（関東甲信越支部）	尾形真規子	橋本　尚武

（任期：2014 年度まで）

11. 平成 26 年度選挙管理委員会委員の承認について

細則第 44 条により，下記の様に承認された．

北海道支部	渥美　敏也	西成病院糖尿病センター
東北	高橋　義彦	岩手医科大学糖尿病・代謝内科
関東甲信越	粟田　卓也	埼玉医科大学内分泌・糖尿病内科
中部	榊原　文彦	住吉町クリニック内科
近畿	難波　光義	兵庫医科大学内科学糖尿病・内分泌・代謝科
中国・四国	谷口　晋一	鳥取大学医学部
九州	土井　康文	麻生飯塚病院
会長経験者	荒木　栄一	熊本大学大学院生命科学研究部

12.「糖尿病学の進歩」プログラム委員会について

細則第 48 条④により，下記の様に決定された．

「糖尿病学の進歩」プログラム委員会

第 48 回「糖尿病学の進歩」世話人　：吉岡　成人
第 49 回「糖尿病学の進歩」世話人　：槇野　博史
第 57 回会長　：花房　俊昭
第 58 回会長　：谷澤　幸生
学術調査研究・教育担当常務理事　：春日　雅人

13. 学会後援について

申し込みのあった 10 件を後援することとした．

1. 第 48 回糖尿病学の進歩　市民公開講座
平成 26 年 3 月 9 日
2. 第 14 回日本先進糖尿病治療研究会
平成 26 年 12 月 6 日
3. 第 31 回糖尿病 Up・Date 賢島セミナー
平成 26 年 8 月 23 日～24 日
4. 2014 年度全腎協全国大会 in さぬき
平成 26 年 5 月 18 日
5. 国際褐色細胞腫・パラガングリオーマ　シンポジウム（ISP2014）　平成 26 年 9 月 17 日～20 日
6. 第20回日本小児・思春期糖尿病研究会年次学術集会
2014 年 7 月 13 日
7.「メタボリックシンドローム撲滅運動キャンペーン」
平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日
8. より良い特定健診・保健指導のためのスキルアップ講座　（東京）平成 26 年 6 月 22 日
（神戸市東灘区）平成 24 年 6 月 23 日
9. 第 18 回日本適応医学会学術集会
平成 26 年 6 月 21 日～22 日
10. 第 2 回日本糖尿病協会療養指導学術集会
平成 26 年 7 月 12 日～13 日

14. 学術評議員の選出方法について

旧細則において規定されていた，理事会が推薦する学術評議員候補者については，平成 24 年 4 月に一般社団法人に移行したことに伴いその制度がなくなり，定款第 39 条第 2 項に従い，次期学術評議員はすべて選挙によって選出することとなった．一方，本学会の活動に必要な小児科，眼科，産科，外科，および基礎研究などの専門性の高い分野に従事している会員の学術的な意見を適切に取り入れるためには，これらの分野を専門とする会員からも学術評議員を一定数選出する必要がある．

選挙を経て選出するという現定款および細則のもとで，この必要性を満たすため，上記の専門分野に関して，通常の選挙人名簿の他に一定数の別枠を設けて選挙をすることとし，小児科については小児糖尿病委員会から，その他に関しては各支部から推薦し，これらの候補者については事前に審査を行ったうえで通常とは異なる選挙人名簿に掲載し，信任投票を行い選出することが承認された．

以上　　文責　庶務担当常務理事　加来浩平